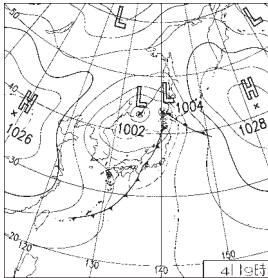


日々の天気図

— No. 105

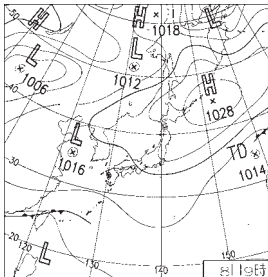
2010年10月

- ・5日、6月3日から続いた国内の連続真夏日の記録が終了。
 - ・18日、台風第13号は885hPaを記録。中心気圧が900hPa未満となった台風は1991年ぶり。
 - ・26日、近畿地方・東京地方で木枯らし1号。
- (気象庁予報部予報課)



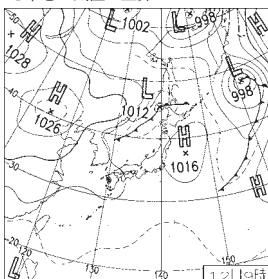
4日(月)低気圧が北海道を通過

低気圧や寒冷前線の影響で近畿から北海道は曇りや雨。近畿を除く西日本は高気圧に覆われおむね晴れ。高知市でヒガンバナが開花。鳥取市でススキ開花。



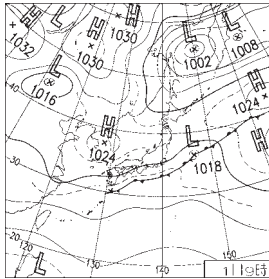
8日(金)天気は西から下り坂

西から気圧の谷が接近。湿った気流の影響もあり沖縄～西日本の太平洋側と東海でまとまった雨。フェーンの影響で、近畿～北海道の日本海側を中心に気温が上昇。



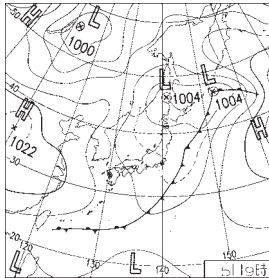
12日(火)西日本は引き続き晴天

西日本は、日中を中心に晴天が広がり最高気温は9月中～下旬並。東～北日本は、低気圧の通過や気圧の谷の影響で曇りや雨。前線が通過した北海道では雷も。



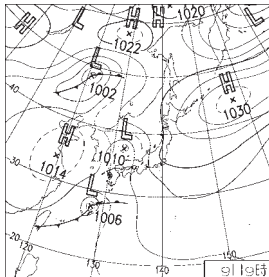
1日(金)秋晴れの10月スタート

沖縄や西～東日本太平洋岸は朝まで雨。日中は帯状の高気圧に広く覆われて、全国的に晴れ間広がる。最高気温も概ね全国的に9月中旬並。岡山市・鳥取市でヤマハギ開花。



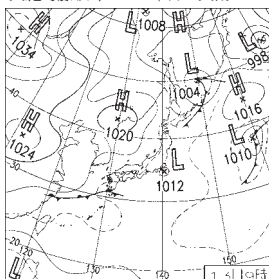
5日(火)国内、連続真夏日終了

北海道は低気圧で、本州日本海側では寒気の影響で雨や曇り。その他は晴れや曇り。6月3日から続いていた国内の連続真夏日の記録が終了。沖縄県南大東村在所等で29.9℃。



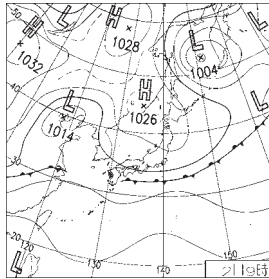
9日(土)太平洋側で大雨

低気圧や湿った空気の流れで沖縄や四国～東海で強雨。徳島県阿南市蒲生田86mm/1h。沖縄県慶良間空港83.5mm/1h等の猛烈な雨。三重県大紀町藤坂峠259mm/日の大雨。



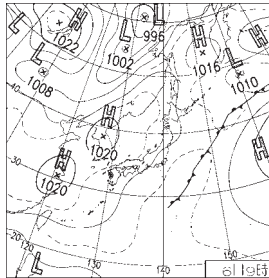
13日(水)関東で局地的大雨

九州南岸に前線がのび出し、九州南部で雨。本州の広い範囲で晴れ、気温が上昇。各地で夏日に。湿った気流が入った関東では局地的に激しい雨。台風第13号発生。



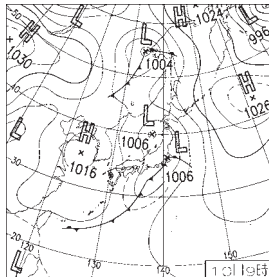
2日(土)九州などを除き秋晴れ

沖縄や西～北日本は高気圧に覆われて晴れ。沖縄は最高気温が8月並、西日本は9月上～中旬並。前線に近い九州～四国の太平洋岸は曇りや雨。宮崎市青島で58.5mm/1hの雨。



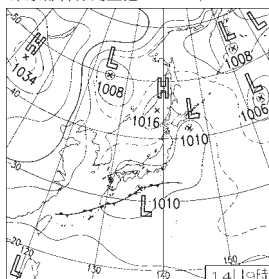
6日(水)寒気の影響残る

上空に寒気を持った気圧の谷が通過。北陸の一部や北日本は曇りや雨。その他の地域は概ね晴れたが、午後から夜にかけ、東日本の山沿いでは所々雨。大阪市でススキ開花。



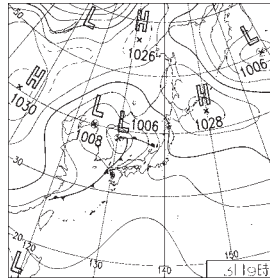
10日(日)西から天気回復

西日本は朝から晴れ。東日本～東北では午前中曇りや雨。太平洋沿岸や伊豆諸島では激しい雨が降ったが午後から晴れ間も。北海道は雨や曇り。東京都神津島空港で53mm/1h。



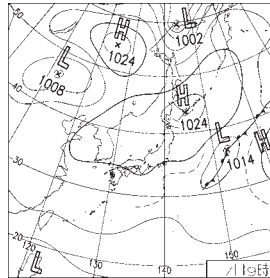
14日(木)関東南部で北東気流

北陸～北日本では概ね晴れたが、本州南海上に低気圧と前線が停滞したため、西～東日本の太平洋側を中心に曇りが広がる。石垣島でヒカンザクラ不開花。



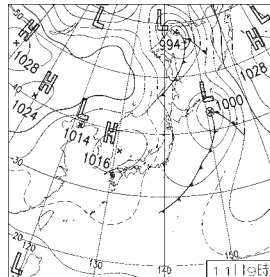
3日(日)上越市で震度5弱

新潟県上越地方を震源とする地震により上越市で震度5弱。湿った気流が入った影響で、西～東日本は曇りや雨。高知市で85mm/1hの雨となり10月の1位の値を更新。



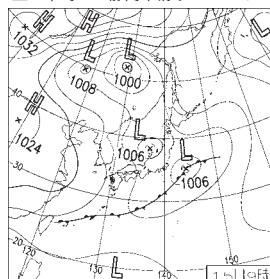
7日(木)全国的に晴れ

高気圧に覆われて全国的に晴れ。西日本は夜間の放射冷却により最低気温が10月下旬並の所も。北日本の太平洋側は気圧の谷の影響で雨や曇り。奈良市と埼玉県熊谷市でススキ開花。



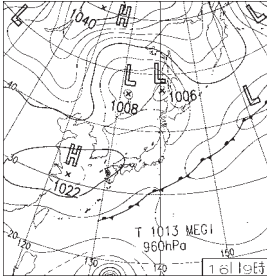
11日(月)運動会日和の体育の日

北陸～東北日本海側などで、気圧の谷の影響を受け曇りや雨の所があった他は、さわやかな晴天広がる。最高気温は東～北日本太平洋側で9月上～中旬並。静岡市清水で29.9℃。

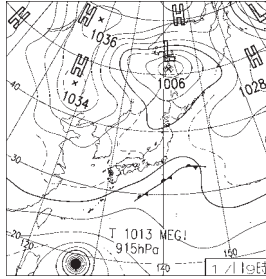


15日(金)新潟県胎内市で竜巻F1

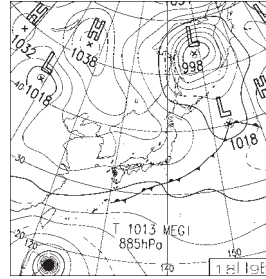
沖縄県と北海道で前線や気圧の谷の影響で非常に激しい雨。沖縄県竹富町上原で60.5mm/1h。登別市カルルスで54mm/1h。上空の寒気で大気の状態が不安定となり新潟県で竜巻。



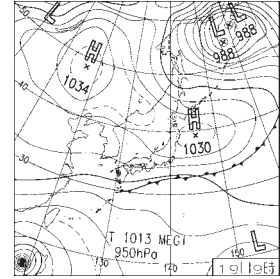
16日(土)穏やかな週末
西から高気圧に覆われる。気圧の谷の影響で雨となった北日本や北陸の一部を除き日中は概ね晴れ。北海道稚内で5ミリのひょう。台風第13号は発達しながら西北西進。



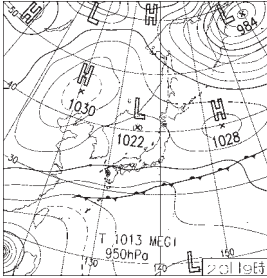
17日(日)台風第13号 895hPa
西日本は晴れ。気圧の谷の影響で、近畿～関東の太平洋側は曇り。北日本は雨や雷。台風第13号の21時の中心気圧895hPa。中心気圧が900hPa未満となった台風は1991年以来。



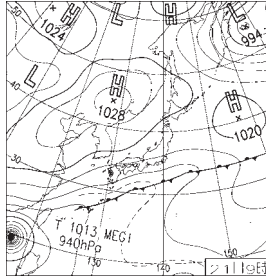
18日(月)本州でも今秋初の冬
沖縄・奄美を除き、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ。盛岡市藪川など本州でも今秋初の冬。函館で初霜。台風第13号は3時には中心気圧885hPaを記録。



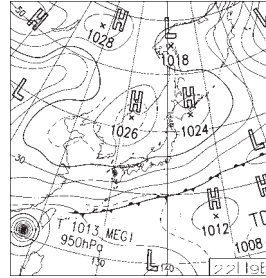
19日(火)北日本冷え込む
本州南海上に前線が停滞。西～東日本の太平洋側で曇り。沖縄・奄美や伊豆諸島では大雨。帯広や釧路で初霜・初氷。盛岡で初霜を観測。台風第13号は南シナ海へ。



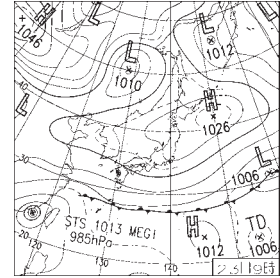
20日(水)奄美地方で記録的大雨
前線の影響で南西諸島～西・東日本太平洋側で雨や曇り。北日本と本州日本海側では晴れや曇り。鹿児島県瀬戸内町古仁屋で89.5mm/1h。奄美市名瀬で年間極値更新622mm/日。



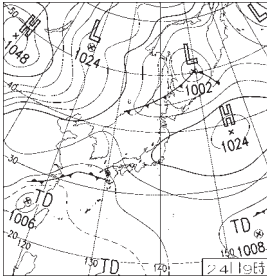
21日(木)本州南海上に前線停滞
湿った気流が流れ込み、南西諸島付近は前線活動が引き続き活発で、30～50mm/1hの激しい雨。西～東日本は厚い雲に覆われ、太平洋側中心に雨。北海道は高気圧に覆われて晴れ。



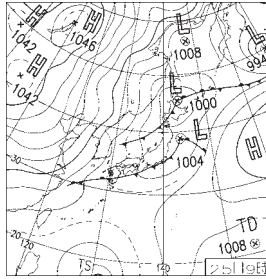
22日(金)台風が台湾海峡へ
南西諸島は、台風第13号からの湿った気流の影響で雨。沖縄県久米島空港では102.5mm/1hの猛烈な雨。西～東日本は前線の影響で曇りや雨。北日本は高気圧に覆われて晴れ。



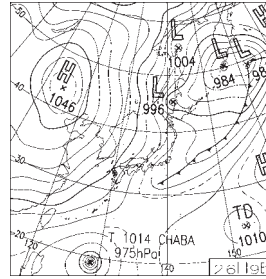
23日(土)秋晴れ広がる
高気圧に覆われ、西日本～北海道の広い範囲で晴れ。先島諸島は暖かく湿った気流の影響で前線活動が活発。沖縄県石垣空港で78mm/1hの非常に激しい雨。奄美は雨続く。



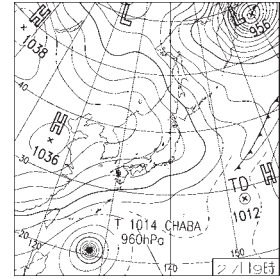
24日(日)西から天気崩れる
低気圧が進んできたため西日本から天気が崩れ。関東以西で雨や曇り。鹿児島県志布志66.5mm/1hの非常に激しい雨。北海道でも寒冷前線の通過で雨。



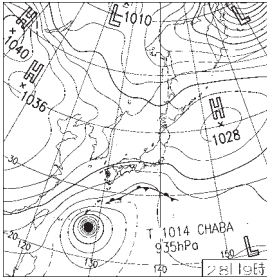
25日(月)全国的に暖かい朝
低気圧や前線の影響で曇りや雨。南西諸島や一部東北太平洋側で晴れ間。朝の最低気温は全国的に高く北海道旭川市宮前通東で平年比10.2℃高い12.2℃。台風第14号発生。



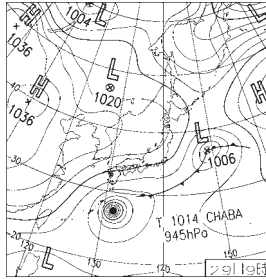
26日(火)各地から続々冬の便り
冬型の気圧配置強まる。西～北日本の日本海側で雨や雪。札幌など北海道の6地点と青森で初雪。北海道は最大風速20m/s前後の暴風。近畿地方・東京地方で木枯らし1号。



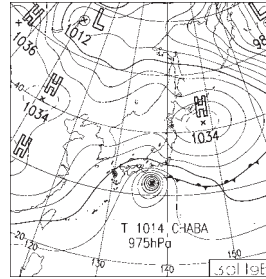
27日(水)寒い朝
強い寒気の影響で全国的に今季最低気温。最高気温も11月中～下旬並。太平洋側は概ね晴れたが、西～北日本の日本海側では雨や雪。南西諸島は台風第14号の影響で風雨強まる。



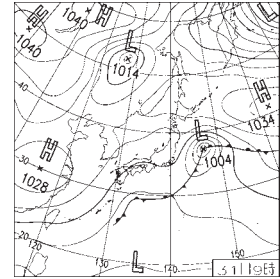
28日(木)真冬並の冷え込み
本州南岸の前線の影響で、広い範囲で雨。気温が上がらず、最高気温は広範囲で12～1月並。東京の最高気温は11.4℃で35年ぶりに12℃を割り込む。南西諸島は風雨強い。



29日(金)大東島地方暴風域に
台風第14号の影響で南西諸島や本州・四国の太平洋側は雨や曇り。台風が接近し暴風域に入った南大東島は最大瞬間風速44.6m/s。高気圧に覆われた北日本は晴れや曇り。



30日(土)台風、伊豆諸島を通過
台風第14号は速度を上げて三宅島付近を通過したため、東京都三宅島神着で最大風速34.6m/s、最大瞬間風速44.9m/s。東京都神津島空港で54mm/1hの雨。青森、札幌等で初霜。

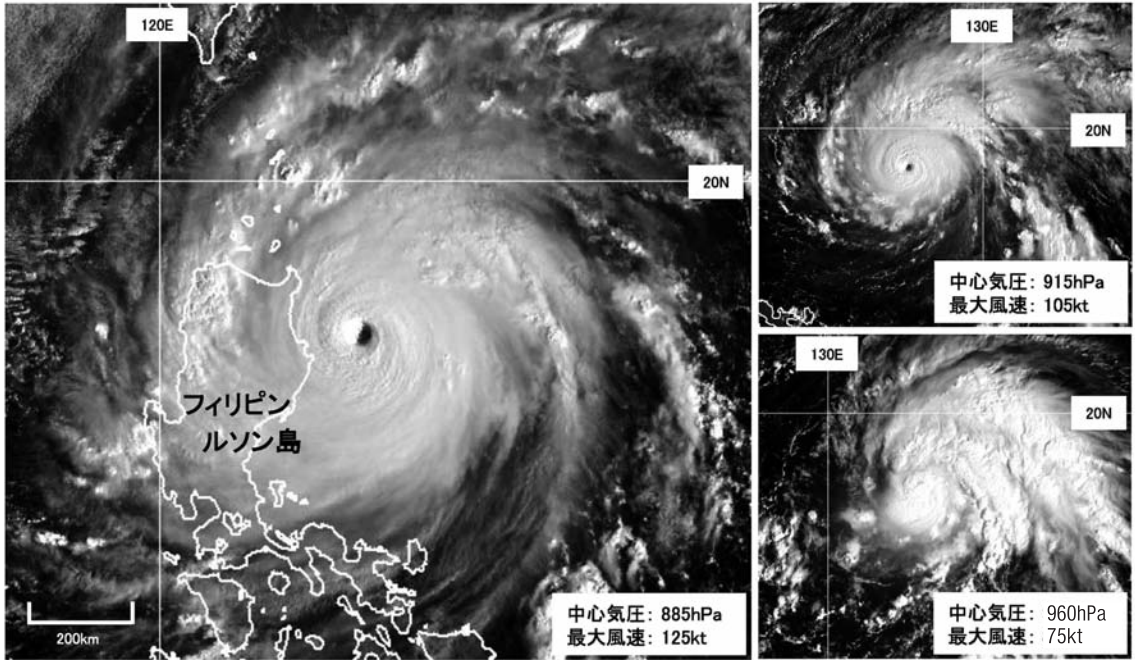


31日(日)「台風一過」ならず
気圧の谷や低気圧の影響で、日中は西日本中心に雨。夜には東日本～東北部に広がる。高気圧に覆われた北海道は概ね晴れ。台風第14号は関東東海上で温带低気圧に。



今月のひまわり画像—2010年10月

中心気圧885hPa にまで発達した台風第13号



第1図 2010年10月16日09時～18日09時（日本時間）の24時間毎の台風第13号の可視画像（右下：16日09時，右上：17日09時，左：18日09時（縮尺は右下，右上の図の2倍），1kt=0.51m/s）。

2010年の台風の発生数は11月末現在14個で，平年値（26.7個）を大きく下回る見込みである。2010年の数少ない台風の中で，第13号は近年稀にみる発達をした台風であった。

第1図は，10月16日09時から18日09時（日本時間）にかけての24時間毎の可視画像である。台風第13号は海面水温の高い（約29℃以上）フィリピンの東海上において17日未明頃から急速に発達し，中心では明瞭な眼と円形の濃密な壁雲が形成された。同日午後から18日午前にかけては眼がさらに明瞭化すると共に台風の中心付近の雲域は円形度を増しながら拡大し，18日03時から09時にかけて第13号の中心気圧は885hPaと解析された。

気象庁の台風ベストトラックで中心気圧が900hPaを下回ったのは1991年の台風第28号以来19年ぶりのこ

とであった。また，中心気圧が885hPaまで下がったのは1984年の台風第22号以来26年ぶりであり，1987年の米軍による定常的な航空機による台風観測が終了した後，初めてとなった。なお，今回の第13号は最盛期でも暴風域が台風の中心から半径200km以内と極端に狭い「超細身」の台風であって，この傾向は発生期からフィリピン上陸時まで一貫していた。

18日午後，台風第13号はフィリピンのルソン島に上陸し，中心気圧は一気に浅まった。その後，南シナ海に抜けてから再発達しながら同海域をゆっくり北上し，20日に鹿児島県奄美地方の一部に記録的な大雨（奄美市名瀬では20日23時20分までの最大24時間降水量が648.0mmとなるなどの極値更新）をもたらす原因となった。

（福岡管区気象台技術部予報課 木下 仁）